

こくたか 連携だより

2019年発行
第153号
10月号



クジャクソウ
(8月~11月)

.. 花言葉 ..

「一目ぼれ」「可憐な人」
「いつもご機嫌」



地域連携症例検討会 2

総合診療科部長 佐藤 正通

高崎総合医療センター 診療科紹介 3

市民健康医学講座

知っておきたい糖尿病と薬のはなし 4

薬剤部 伊藤 瑠衣

地域との連携

緩和ケアネットワーク 5

医療社会事業専門員 山田 拓哉

緩和ケアニュース 6

栄養だより 7

臨床検査科だより 8

がん相談支援センター 9

医師紹介コーナー 10

地域医療連携登録医のご紹介 11

セカンドオピニオンのご案内 12~13

外来診療担当表 14~15

院長室だより/行事などのお知らせ 16

●地域医療支援病院 ●がん診療連携拠点病院

独立行政法人国立病院機構
高崎総合医療センター



〒370-0829 群馬県高崎市高松町36
代表 (TEL) 027-322-5901
URL <http://www.tnho.jp/>

地域医療支援・連携センター(医療機関専用ダイヤル)
(TEL) 027-322-5835
(FAX) 027-322-5925

【理念】

患者さんから信頼される病院を目指します

【基本方針】

- 常に患者さん本位の医療を心がけます
- 研鑽に励み、安全で良質な医療を提供します
- 医療連携を積極的に推進し、地域医療に貢献します
- 良き医療従事者の育成に努めます
- 臨床研究を推進します
- 健全な病院経営を行います

【看護の理念】

人間の尊厳を大切にし、専門的な知識、技術を持ち、心のかもった看護を提供します

【患者さんの権利を守ります】

- 誰でも良質で安全な医療を受ける権利があります
- 患者さんの人格や価値観が尊重され、医療提供者との相互協力のもとで医療を受ける権利があります
- 病気、治療等について、十分な説明を受ける権利があります
- 他の医師の意見(セカンドオピニオン)を求める権利があります
- 病気等について十分な説明を受けたうえで、自分の意志で検査や治療方法を選択したり、他の医療機関を選択する権利があります
- 医療情報に関する個人のプライバシーが守られる権利があります

第17回 地域連携 症例検討会

総合診療科、内分泌・代謝内科

総合診療科部長 佐藤 正通



令和元年9月19日、高崎総合医療センターにおきまして、当院へ紹介頂く多くの先生方をお招きし、第17回地域症例検討会を開催させて頂きました。今年度におきましては、消化器疾患を消化管、肝胆膵疾患に分けて行い、この度は総合診療、総合内科領域および代謝内分泌領域の診療について、地域医療機関から御紹介頂きました症例を基に90分に渡り、症例報告および討論を行わせて頂き、連携診療上、大変有意義かつ、今後の診療に役立つ内容であったと感じております。医療連携でありますので、異なった医療機関に勤務している医師同士の学術的かつ実践的な疾病認識の共有と振り返りが同検討会を以ってなされたことは、今後高崎で診療を継続する両者にありましては、より適切かつ有効な診療を展開していくために必須であると考えております。当センターでは「地域医療研修」として、当院にて研鑽を積んでいる初期臨床研修医も参加し、地域連携症例検討会を毎回開催させて頂いております。近年の保険診療モデルから提唱されているのは、「地域内役割分担明確化の連携の深化」をもって地域内に有限な医療機関をより有効かつ適切に運営し、地域住民の健康や福祉に寄与していくことが求められております。故に一人の患者の診療にあって、診療(ケア)は適材適所で診療が行われる反面、疾病

経過のプロセスにより診療は分割化されており、全国的ではありますが、一医療機関のみでは医師が行う診療の全プロセスを研修することが困難となっております。地域を担う先生方とのこのような検討会は、現在日本の臨床研修にあつては、とてもインパクトのあるカリキュラムになることと日頃から感じている次第でございます。今年度にあつては、これから呼吸器疾患(呼吸器内科および胸部外科担当)、および循環器疾患(心臓血管内科・外科担当)の検討会を予定しております。地域の先生方におかれましてはご多忙のことと存じ上げておりますが、その際には当センターへ足をお運び頂き、地域連携症例検討会にご参加頂きますよう、宜しくお願い申し上げます。この度の検討会にご参加頂きました先生方、ありがとうございました。今後におかれましてもご指導くださいますよう、切にお願い致します。



総合診療科
合田 史



内分泌・代謝内科
澁沢 信行

高崎総合医療センター 診療科紹介



総合診療科・内科

■ 診療方針

総合診療とは医療を受けられる全ての人々が最初に求める医療であるとする観点から、主要症候に基づいた診断へのアプローチ、そして標準治療の遂行を成すプロフェッショナルとして位置づけています。総合診療科医師の働く場所は病院全域であり、外来ではプライマリ・ケア医と領域を共にする病院勤務医であることから、地域のプライマリ・ケア医からの診療要請（紹介）、救急要請に力点を置いています。医師各々の経歴、もしくは嗜好により得手不得手はありますが、医師個人の診療域は特に限定せず、必要に応じ専門診療科医師との協働により診療を継続します。その多くは総合診療科のみで完結する 경우가多く、担当医師の臨床能力や深部に渡る知識の習得を目的とする観点からは、可能な限り総合診療科医師により患者診療の中核となり、主治医として必要に応じ院内もしくは地域内専門領域医師のコーディネートを行い全人的医療の完結を目指していきます。

30専門診療科を有する高崎総合医療センターにあって、全人的医療を遂行するにおいて、以下の領域もしくは病態に対し積極的な診療を継続しています。

- 1 診断困難例
- 2 全身的徴候を有する疾病
- 3 複数臓器障害を有する事例
- 4 各臓器、各種感染症
- 5 Common diseases
- 6 代謝・内分泌、血液、膠原病、リウマチ疾病
- 7 内科系救急医療

■ 平成30年度診療実績

平均在院患者数 : 38.7名
年間入院患者数 : 641名 (病院統計延べ数)

外来新患者数 : 922名
1日平均延患者数 : 45.8名
年間外来患者数 : 11,166名 (病院統計延べ数)



佐藤 正通



合田 史



真下 大和



飯塚 堯



知っておきたい 糖尿病と薬のはなし

糖尿病とは、血液中のブドウ糖の濃度（血糖値）が高い状態が慢性的に続く病気です。患者数は約300万人と言われており、増加傾向にあります。私たちの体は、すい臓から分泌されるインスリンというホルモンの働きにより血糖値が一定の範囲になるように調節されています。このインスリンの量が十分ではなかったり、インスリンがうまく働かないことで血糖値が高くなってしまいます。血糖値が高いまま放置されると、体の中の血管が傷ついていきます。太い血管が傷つくと動脈硬化を引き起こし、心筋梗塞や脳梗塞につながることもあります。また、細い血管が集まっている網膜や腎臓、神経などの部位で障害が起こりやすく、網膜症、腎障害、神経障害は糖尿病の三大合併症と呼ばれます。こうした合併症の発症を防ぎ、健康な人と変わらない生活の質を保つために、早期から血糖値をコントロールしていくことが重要です。治療の基本は食事療法と運動療法ですが、それでも血糖値が改善されない場合に薬を使った治療を行なっていきます。糖尿病の薬には大きく分けてインスリンの注射薬と、飲み薬があります。どちらも、薬の働き方によってさまざまな種類があり、患者さんひとりひとりの血糖値の状態に合わせて薬が選択されます。そのため、決められた薬を正しく飲むことがとても大切です。薬の飲み方等でご不明な点がある場合は、お気軽に医師・薬剤師へご相談ください。

当院では、昨年度より糖尿病療養指導プロジェクトチームが立ち上がり、内分泌代謝内科の渋沢先生を中心として、各医療スタッフで連携して糖尿病患者さんのサポートを行っています。その一環として、入院患者さんやそのご家族へ向けて糖尿病教室を開催しており、糖尿病に関する正しい知識を身につけていただくことができます。また、本年度より糖尿病患者さんと医療スタッフからなる糖尿病患者会「高松糖友会」がスタートしました。勉強会やお茶会を通じて患者さんやご家族同士の交流をさらに盛り上げていきたいと考えています。

興味のある方はどなたでも参加可能ですので、奮ってご参加ください。

地域との連携

緩和ケアネットワーク



医療社会事業専門員

山田 拓哉



2019年8月22日(木)、高崎地域緩和ケアネットワークの会主催の第63回井戸端相談会が当センターにて開催されました。高崎地域緩和ケアネットワークの会は、下表のように活動を行っております。

高崎地域緩和ケアネットワークの会

活動開始	「顔の見える連携づくり」を目的として 平成20年3月 有志12名から活動開始
参加人数	現在、世話人40名程度 ネットワーク参加者は100名程度
参加職種	医師、歯科医師、薬剤師、保健師、看護師、MSW、介護福祉士、 ケアマネージャー、リハビリセラピスト、大学教員、施設管理者、 訪問入浴担当者、スポーツトレーナー、鍼灸マッサージ師、弁護士、 看取り士、美容師 等々
参加施設	病院、診療所、調剤薬局、訪問看護ステーション、高齢者施設、 福祉用具・医療機器事業所 等々多岐にわたる
主な活動	・世話人 4回/年 ・井戸端相談会 7回~8回/年 ・市民公開講座 1回/年(医療・介護職、一般市民対象) (講演、パネルディスカッション、劇団「あ・かんわ」による演劇など) ・出前講座



今回は、「退院支援は人生・生活を考えること
多職種で考える退院支援、そしてACP」というテーマで開催し、28名の方にご参加いただきました。初めに架空事例を用い“退院支援”をテーマに小グループでディスカッションを行いました。患者さんの療養に関する意思決定の場面から、具体的に退院後の生活を送る上でどのような課題があるのか、その課題をどのような方法で解決するのかなど、活発な意見交換が行われました。患者さんの身体状態・家族背景・生活背景・患者の思い・家族の思い・必要な医療の継続方法など、様々な視点から検討を行うことが出来ました。最後に、「当センターの退院支援システムとその実際」についてお話をさせていただきました。退院支援は地域の多職種と協働していくものということを皆で学ぶことが出来たと感じ

ています。

当センターは急性期病院という性質上、治療が必要な期間しか入院することが出来ません。治療を終えたからといって入院前のような生活が送れるとは限らず、このような場合には地域の多職種の方々と連携し生活を支えていく必要があります。本相談会のような活動を通じ、生活上の課題を有するより多くの方が、安心して生活を送れる地域づくりに繋がっていきたいと思っています。

退院支援のタイミングはACP(アドバンス・ケア・プランニング)を考えるタイミングと重なることが多いと感じています。退院支援そのものがACPと言えるのではないのでしょうか。自分らしい人生を送っていくために皆さんも考えていきましょう。

緩和ケアニュース

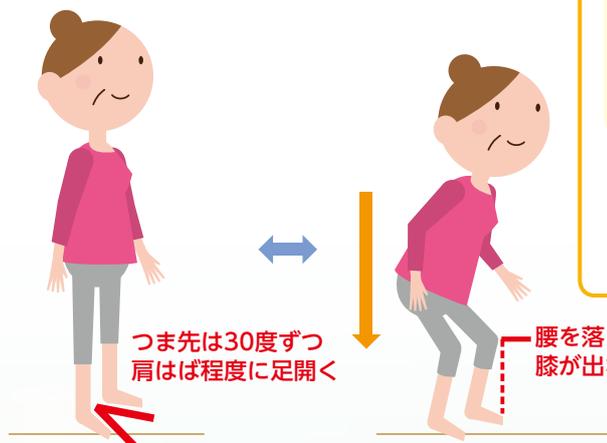
治療過程別での悩みや負担 “治療後” は『体力低下』が1位

がん治療過程によって悩みや負担は移り変わります。“治療开始前”は「病状」や「治療による副作用症状や機能障害」について、“治療中”は「治療に伴う症状によるつらさ」「外見の変化」などが挙げられます。一方“治療後”は『体力低下』を訴える人が半数を超えて最も多いという結果でした。がん体験者の方は長期間の“治療後”に失われた「体力」によって、その後の生活、就労や家庭における役割(家事、育児)、生きがいなど多方面での問題を招いてしまっています。

今からできる体力をつなげる方法『自分らしく生活するために』

《膝曲げ運動》

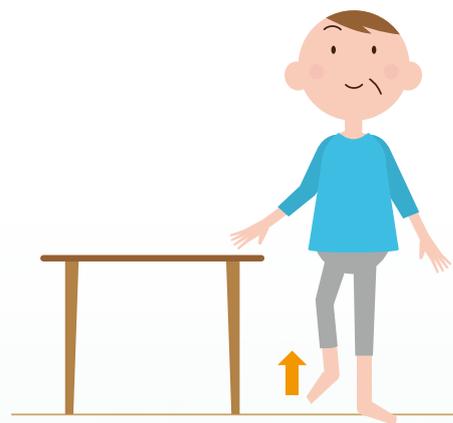
5～10回を1日3回



膝曲げ運動ができない方は椅子に腰かけ、机に手をつけて立ち上がり動作を繰り返しましょう。

《片脚立ち》

左右1分間を1日3回



※転倒しないように必ずつかまる場所があるところで行いましょう！

一日20～30分ほどのウォーキングやラジオ体操などもおすすめです。できるだけ毎日継続できる運動を選び、無理のない範囲で進めていきましょう。

♪ おまけ ♪

全国のがん体験者4054名に対するアンケート調査が静岡県立静岡がんセンターより報告されました。がん体験者自身が感じた悩みや実際に行った負担への対処法などが生の声として挙げられています。ぜひ一度、目を通してみてください。(※右QRコードからホームページへアクセスできます。)



暑い夏が過ぎ、過ごしやすい季節になりましたね。

みなさんにとって秋とはどんな季節でしょうか？

読書の秋、芸術の秋、食欲の秋…今回はスポーツの秋ということで、運動に必要な栄養素についてお話しします。

筋力アップ たんぱく質を強化しよう！

筋力アップのために必要な栄養素は、「たんぱく質」です。5大栄養素の1つであるたんぱく質は、筋肉・骨・血液の材料となるほか、毛髪や爪、皮膚やホルモンなど、体の構成に欠かせない栄養素です。そのため、筋力アップ、そして健康なカラダづくりには、材料となる「たんぱく質」をしっかり摂ることが必要となります。

たんぱく質を多く含む食品は、肉や魚、卵や大豆製品です。運動をする人は、体重当たり1g以上のたんぱく質を摂取することが推奨されています。いつもの食事だけで補えないときは、市販のプロテインで補っても大丈夫です。



持久力アップ エネルギーを補給しよう！

持久力アップのためのキーワードは「エネルギー」です。長時間の練習や試合を乗り切るために、体は多くのエネルギーを必要とします。エネルギーが切れてくると、バテて動けなくなったり、集中力が低下したりと、自分の持てる力が発揮できません。ですので、エネルギー源をしっかり補給し、効率よくエネルギーをつくる必要があります。体にとって最も効率の良いエネルギー源は「糖質」です。近年「糖質制限ダイエット」といって、主食を抜くダイエットが流行していますが、運動をする人にはおすすめてできません。体に必要なエネルギーを補給し、パフォーマンスを発揮するためには糖質は不可欠な栄養素です。

糖質を多く含む食品は、ごはんや麺、パンなど主食となるものや果物類です。また、糖質を効率よくエネルギーに変換するためにはビタミンB1が必要になります。ビタミンB1は豚肉や大豆類に多く含まれます。糖質+ビタミンB1はセットで摂るようにしましょう。



疲労回復 たんぱく質とビタミンCを運動直後に摂取しよう！

運動直後は、筋肉が傷ついている状態になります。そのまま放置すると、筋肉がいつまでたっても修復されず、疲労の原因となってしまいます。運動直後は筋肉のもととなるたんぱく質と、疲労回復のためビタミンCを摂取しましょう。たんぱく質が多く含まれるヨーグルトや、ビタミンC豊富な果汁100%のオレンジジュースなどが手軽でおすすめです。また、食事のほかに疲労回復のために欠かせないのが十分な睡眠です。睡眠中は「成長ホルモン」という、体を大きくする、疲労を回復する、壊れた筋肉を修復するなどの働きがあるホルモンの分泌が盛んになります。夜10時から深夜2時くらいが最も分泌が盛んになるため、運動をした日は早めに布団に入ることを心がけましょう。



しっかり食べてよく動く！秋を楽しみましょう♪

ここまで血小板と凝固カスケードにより、血栓が形成されて止血の成り立ちについて解説してきました。この止血機能は、怪我などで出血したときに血栓が形成されて血液の流出を防ぐ生体の防御反応として無くてはならない機能です。逆に血栓が形成できなければ、止血できなくて出血が止まらないということになってしまいます。当たり前ですが正常であれば、血管の中では血液は固まることはありません。では何故、血管の中で血小板は血栓を作らないのか？それは血管の内腔を覆う血管内皮細胞が大きな役割を果たしているからです。この細胞にはトロンボモジュリン、ヘパリン様物質、組織プラスミノゲンアクチベータ (t-PA)、NO (一酸化窒素)、プロスタサイクリン (PGI₂) などの抗血栓性物質が存在し、血栓の形成を防いでいます。しかし、何らかの異常があって血管内で血栓が形成され、血流が妨げられると血管が閉塞してしまいます。これを血栓症といいます。血栓症が引き起こす代表的な疾患には脳梗塞、心筋梗塞、肺塞栓症などがあります。血栓症は動脈血栓症と静脈血栓症に分類され、それぞれ特徴や治療方法が異なります (表1)。血栓症の代表的な危険因子は表2に示します。

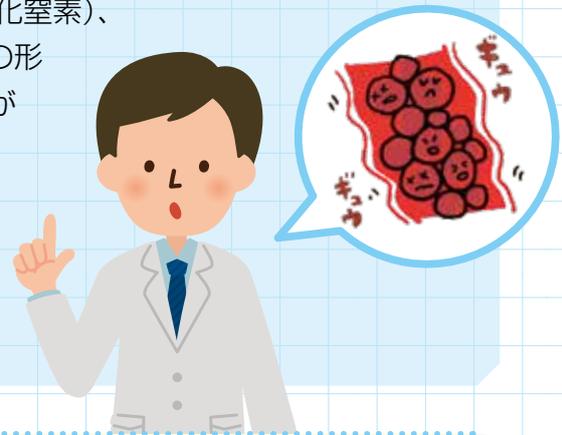


表1. 血栓症の分類

血栓症の分類	主な疾患	特徴	治療法 (薬物)
動脈血栓症	脳梗塞 心筋梗塞 末梢動脈血栓症	・血流の速い環境下で起こる血栓症 ・血小板活性化が病態 ・血小板含有量の多い血栓	抗血小板療法 (アスピリンなど)
静脈血栓症	肺塞栓 深部静脈血栓症	・血流の遅い環境下で起こる血栓症 ・凝固活性化が病態 ・フィブリン含有量の多い血栓	抗凝固療法 (ワルファリンなど)

表2. 血栓症の危険因子

動脈血栓症	静脈血栓症
<ul style="list-style-type: none"> ・動脈硬化性疾患 (高血圧症、糖尿病、高脂血症、喫煙、加齢) ・抗リン脂質抗体症候群 ・高Lp (a) 血症 ・高ホモシステイン血症 ・心房細動 ・慢性骨髄増殖性疾患 ・薬剤性 ・その他 	<ul style="list-style-type: none"> ・先天性凝固阻止因子欠損症 ・脱水、多血症 ・肥満 ・妊娠 ・下肢骨折・外傷、手術 ・下肢麻痺、長期臥床、ロングフライト ・悪性腫瘍 ・心不全、ネフローゼ症候群 ・高Lp (a) 血症 ・高ホモシステイン血症 ・慢性骨髄増殖性疾患 ・薬剤性 ・その他

がん相談支援センター

病気や療養、生活に対する不安など お気軽にご相談ください。

- 今後の検査や治療のことが不安
 - 治療の副作用が心配
 - 療養生活に関する情報がほしい
 - セカンドオピニオンについて相談したい
 - 緩和ケアに関する情報を知りたい
 - 仕事はどうしたら良いか？
 - 在宅医療や介護保険など住宅ケアに関することを相談したい
 - 禁煙に関すること
- などなど

相談窓口 1階 6番入退院センター隣

電話相談 027-322-5901 (代) + 「がん相談希望」とお伝え下さい。

相談受付時間 平日 8時30分～17時15分

がん患者さんやそのご家族の集いです

ほっとさろん・たがさき

病気のことや日々の生活のことなどお茶を飲みながらお話しませんか？

当センターでは、がんさを月1回開催しております。
がん患者さんやそのご家族に、ご自由に参加して頂いております。
事前の申し込みは必要ありません。



2階ほっとさろん案内図

とき：毎月 第四金曜日
13時30分～15時30分

ところ：高崎総合医療センター2階 売店右奥

当日は、高崎総合医療センター相談支援センターの看護師やソーシャルワーカーも参加いたします。



- 当院へ駐車の場合、駐車料金がかかりますのでご了承ください。
(2時間まで無料 以降1時間100円)
- さろんについてのお問い合わせは、高崎総合医療センター**相談窓口**までお願い致します。
- 電話：027-322-5901 (病院代表)

医師紹介 コーナー

当センターの
医師を
紹介します!



こんにちは。消化器内科の鈴木悠平と申します。出身は高崎で、当院では以前も働いていたことがあります。その後県内の病院で研鑽を積み、今回再び高崎の医療に貢献できればと考え、戻ってきました。消化器内科は胃、大腸、肝臓、胆嚢、膵臓などを中心にみていき、疾患としては便秘といったありふれたものから癌まで幅広くあります。様々な疾患を患者さん、ご家族の方にわかりやすく説明ができるよう心がけて、患者さんと良い関係を築いてゆけるよう努力して参ります。また、地域の先生方ともスムーズな連携をとり患者さんによりよい医療を提供できたらと考えております。どうぞよろしくお願い申し上げます。



●消化器内科

すずき ゆうへい
鈴木 悠平

4月より脳神経外科に勤務しております。2012年に群馬大学を卒業し、富岡総合病院での初期研修を経て、当院でも勤務しておりました。その後、群馬大学で研鑽を積み、大学院で脳梗塞後の血管新生の研究を行いました。医学博士、脳神経外科専門医を取得し、当院にてさらに精進して参りたいと考えております。

当科で診療が多い脳卒中については、超急性期の速やかな治療と再発予防のために、地域の先生方との協力が不可欠と考えております。当院神経内科の医師と協力して、円滑な診療に当たりたいと考えております。

また、日本体育協会スポーツドクターとして、頭部外傷の治療にも積極的に取り組みたいと考えております。脳震盪を中心に軽傷頭部外傷においても、繰り返す障害により重篤化する可能性があります。注意を要するとされています。頭部外傷後の競技復帰や心配な症状について、ご相談ください。

地域の先生方、患者さんと、よりよい医療を目指せばと思いますので、何卒よろしくお願い申し上げます。



●脳神経外科

しまうち ひろや
島内 寛也

地域医療連携登録医 のご紹介

地域医療連携登録医の皆さまと
パートナーシップを組んで診療に取り組んでいます。

資生クリニック

院長あいさつ

「資生」には「人々の生活を助ける」「成長する」との意味があり、祖父が診療しておりました「資生醫院」より名を継承いたしました。

群馬県立心臓血管センターでの12年間の診療と鶴谷病院等の周辺病院での外来診療で積んだ経験をかかりつけ医として地域の皆様の健康に貢献できれば幸いです。どうぞ宜しくお願いいたします。



資生クリニック
院長
簡 伯憲

診療科・病院案内

内科・循環器内科・糖尿病内科・漢方内科

診療時間	月	火	水	木	金	土	日・祝
午前(9:00~12:00)	●	●	●	●	●	●	△
午後(15:00~18:00)	●	●	●	△	●	△	△

群馬県佐波郡玉村町上茂木470-1 TEL:0270-50-0800
<https://www.shisei-clinic.com/>

つねに患者様に寄り添い、十分話を伺った上で治療をすすめていきたいと思っています。患者様一人一人の状態に合わせた丁寧な治療、健康増進および病気の予防に寄与してまいります。最新で最適な治療をすることはもちろんですが、何より安心して体のことを相談できるクリニックでありたいと考えています。頭痛・腹痛・風邪はもちろん高血圧・糖尿病・脂質異常症にも対応しています。お気軽にご来院していただければ幸いです。

医療法人 誠和会 正田病院

院長あいさつ

正田病院は地域の皆様のために尽くすことをモットーとして、常に真心を持って患者さんに接し、よりよい医療を提供することに努めております。家庭医(かかりつけ医)として一般診療を行い、また、地域の他の医療機関とも積極的に連携を図っております。当院の特徴は、消化器(胃、大腸、肛門、肝臓、胆嚢、脾臓)の認定医による診察、スポーツ外来のテーピングやリハビリテーション、腰痛などに対する理学療法を行っております。



正田病院
院長
正田 弘一

診療科・病院案内

外科・内科・胃腸科・整形外科・肛門科・放射線科

診療時間	月	火	水	木	金	土	日・祝
午前(9:00~12:00)	●	●	●	●	●	●	△
午後(2:00~6:00)	●	●	●	●	●	△	△

群馬県安中市安中1-16-32 TEL:027-382-1123

医療法人 誠和会 正田病院の基本理念

- 誠を以て人に接し和を以て貴しとなす。
 - やさしく誠意をもって来院する患者さんの診療に従事すること。
 - 医療は個人個人の技術も大切だが、更に同じ目的に向かって仕事をしている者同士が仲良く協力し合って仕事をすることがより大切である。
- 挨拶

社会生活の第一歩は日常の挨拶から始まることを十分に理解し互いに心からなる挨拶を忘れぬように気をつける。

セカンドオピニオンのご案内

当センターではセカンドオピニオン外来を実施しております。
概要につきましては以下のとおりです。



対象患者さん

- 現在当センター以外の医療機関で診療を受けている患者さん、ご家族
- 現在の主治医（他医療機関）の診断及び治療方針について、当センター医師に参考意見を求め、患者さんご本人が自らの疾患をより理解し適切な診療を選択する等の為に、セカンドオピニオン外来の活用を望む方
- 原則として主治医（他医療機関）からセカンドオピニオンを目的とした紹介状及びフィルム等の検査資料を当院に提供可能な患者さん、ご家族であることを要します（主治医にセカンドオピニオンを受けるための紹介状等をお願いすれば対応してもらえます）
- 相談者をご家族の場合は、原則として患者さんの同意を得た場合といたします

実施診療科

【各科の専門医が対応いたします】

内科・精神科・呼吸器内科・消化器内科・循環器内科・小児科・外科
乳腺、内分泌外科・脳神経外科・呼吸器外科・産婦人科・泌尿器科・眼科
放射線診断科・放射線治療科・歯科口腔外科



予約方法

完全予約制 代表電話：027-322-5901

※代表にお電話を頂き、「セカンドオピニオン係」とお申し付け下さい

【受付時間】 月曜～金曜 8時30分～17時の間

※精神科の受付時間は 月曜～金曜 8時30分～12時迄 となります

※事前にご予約電話を受け付け、担当専門医と日程調整を行った後に折り返し当センターより連絡させていただきます

外来時間

セカンドオピニオン外来時間（診療科によって曜日は異なります）

月曜～金曜 13時30分から15時30分の間で調整

費用

30分以内 5,500円(消費税込み)

30分以上 11,000円(消費税込み)

セカンドオピニオンとは

セカンドオピニオンとは現在の自分の病状や治療方針について他の医師の意見を求めることをいいます。医療が進歩してさまざまな治療法が生まれています。

その結果、医師によって病気に対する考え方が違うことや、病院によって医療技術や診療の質に差があることも考えられます。治療法について具体的な比較ができ、より適した治療法を患者さん自身が選択することができます。

当センターでは、よりよい治療法を患者さん自身が選択できるように、セカンドオピニオンを積極的にお勧めしております。

セカンドオピニオン 外来担当表

科名	医師名	専門	曜日
内科	佐藤 正通	内科全般、血液内科	火
精神科	井田 逸朗	がんのメンタルヘルス	木
呼吸器内科	茂木 充	呼吸器全般	金
消化器内科	工藤 智洋	食道、胃、大腸	木
	長沼 篤	消化器病一般、肝臓病	木
心臓血管内科	広井 知歳	狭心症・心筋梗塞の治療（カテーテル治療）	金
	太田 昌樹	不整脈一般	水
小児科	五十嵐 恒雄	小児科全般・未熟児・新生児	水
外科	小川 哲史	消化器外科全般、特に悪性腫瘍の手術	木
	坂元 一郎	消化器外科全般	水
	塚越 浩志	大腸	水
乳腺・内分泌外科	鯉淵 幸生	乳癌全般・甲状腺外科	第1・3・5週金(午前)
脳神経外科	栗原 秀行	脳・脊髄腫瘍、脳神経外科全般	火
	笹口 修男	脳血管障害	木
呼吸器外科	菅野 雅之	肺癌、縦隔腫瘍、呼吸器外科全般	木
産婦人科	伊藤 郁朗	婦人科腫瘍	月、火、金
泌尿器科	井上 雅晴	泌尿器科全般	火
眼科	土屋 明	眼科全般（眼腫瘍を除く）	水、木
放射線診断科	根岸 幾	画像診断CT・MR中心	木
	佐藤 洋一	画像診断CT・MR中心	火
放射線治療科	北本 佳住	悪性疾患の放射線治療	金
歯科口腔外科	稲川 元明	口腔顔面痛	火、水、木、金
	薬師寺 孝	口腔外科全般、顎変形症、インプラント	月、火、木、金

外来診療担当表

当センターは、地域医療支援病院として運営しております。
かかりつけ医の先生からの紹介状をご持参願います。

	月	火	水	木	金
総合診療科・内科	佐藤 正通 飯塚 堯	合田 史 真下 大和	合田 史	佐藤 正通 合田 史 <small>午後：予約専門外来</small> 飯塚 堯	佐藤 正通 真下 大和
栄養外来		佐藤 正通 <small>午後</small>			
内分泌代謝内科	渋沢 信行	(小澤 厚志)	武藤 壮平 (道又 敏夫)	渋沢 信行 <small>午後</small>	武藤 壮平
神経内科	(池田 雅美)	古田 夏海	藤田 智	(山内 茉由莉)	古田 夏海
呼吸器内科	茂木 充 <small>午前</small> 佐藤 麻里	(竹村 仁男) <small>午前</small> 大島 一真	大島 一真 <small>午前</small> 増淵 裕朗	茂木 充 <small>午前</small> 増淵 裕朗	佐藤 麻里 (大貫 祐史)
消化器内科	長沼 篤 安岡 秀敏 上原 早苗 <small>午後</small> 綿貫 雄太	工藤 智洋 星野 崇 鈴木 悠平 綿貫 雄太	安岡 秀敏 増田 智之 石原 弘 <small>午後</small> (蘇原 直人) <small>午前</small>	長沼 篤 増田 智之 鈴木 悠平 <small>午後</small> 柴崎 絵理奈	工藤 智洋 星野 崇 相原 幸祐 (岡野 祐大) <small>午後</small>
内視鏡検査	星野 / 増田	安岡 / 増田	工藤 / 綿貫	工藤 / 上原	長沼 / 鈴木 / 岡野
心臓血管内科 (循環器)	太田 昌樹 <small>午前：通常 / 午後：不整脈外来</small> 村田 智行	小林 洋明 高橋 伸弥 (金澤 紀雄) <small>再来</small>	広井 知歳 佐野 幸恵 太田 昌樹 <small>不整脈外来 午後</small>	福田 延昭 (金澤 紀雄) <small>再来</small> 湯浅 直紀	小林 紘生 <small>午前：通常 / 午後：不整脈外来</small> 太田 昌樹 <small>ペースメーカー外来、第2・4週午後</small> 柴田 悟
新患外来(午前)	高橋 伸弥	福田 延昭	村田 智行	佐野 幸恵	小林 洋明
精神科	井田 逸朗 村山 侑里	井田 逸朗 村山 侑里	井田 逸朗 村山 侑里	井田 逸朗	井田 逸朗 村山 侑里
小児科	五十嵐 恒雄 <small>午前</small> 徳永 真理 <small>午後</small> 内田 亨 八木 龍介 <small>午後</small>	五十嵐 恒雄 <small>午後</small> 倉田 加奈子 <small>午前</small> 八木 龍介 (神尾 綾乃) <small>第2・4週午後</small>	五十嵐 恒雄 <small>午前</small> 倉田 加奈子 <small>午後</small> 佐藤 幸一郎 <small>午後</small> <乳児健診> <small>午前</small>	倉田 加奈子 <small>午前</small> 徳永 真理 <small>午後</small> 小笠原 聡	五十嵐 恒雄 <small>午後</small> 徳永 真理 <small>午前</small> 佐藤 幸一郎 (西澤 拓哉) <small>第2・第4週午後</small>
小児外科		(西崎・高澤 慎也) <small>第2・4週午後</small>			
外科 (消化器)	坂元 一郎 田中 成岳	小川 哲史 <手術日>	榎田 泰明 田中 寛	小川 哲史 平井 圭太郎 小川 哲史 <small>小川祐介(栄養士)</small>	塚越 浩志 星野 万里江
栄養サポート外来					
ストーマ外来			第2・4週目午後：予約	第1・3・5週目午後：予約	
泌尿器科	井上 雅晴	栗原 聰太	(青木 雅典)	井上 雅晴	栗原 聰太

1 外来診療 受付時間

8:30～11:00迄 (予約の場合は最終予約時間まで)

※再来受付機は8:00から受付しています

- 紹介状をお持ちの方、紹介事前予約の方は、1番：紹介状をお持ちの方・地域医療連携窓口で受け付けております。
- 当センター受診にはかかりつけ医の先生からの紹介状をご持参ください。紹介状をお持ちでない場合、診察をお受けできない場合や、長時間お待ちいただく場合がございます。

2 休診日

土、日、祝日、年末年始

- 学会等により、休診または医師が交替する場合があります。院内掲示をご覧ください。



地域医療支援・連携センターから地域の先生へお願い

当センターへの紹介の際は、
地域医療支援・連携センターを通じた
事前予約にご協力下さい。

()の医師は非常勤です。

	月	火	水	木	金
緩和医療科	田中俊行	田中俊行	田中俊行		田中俊行
乳腺・内分泌外科	鯉淵幸生	鯉淵幸生	鯉淵幸生	交代制／(中澤祐子) 午前、予約 午後、予約	鯉淵幸生 第2・4週目
	荻野美里	高他大輔	荻野美里 高他大輔 再診予約		高他大輔 荻野美里 第1・3・5週目
心臓血管外科	<手術日>		高橋 徹	小谷野 哲也	茂原 淳
呼吸器外科	<手術日>	菅野雅之 高坂貴行 午後	<手術日>	菅野雅之 高坂貴行	<手術日>
整形外科	新井 厚	大澤敏久 (柳澤信明) 午後	荒 毅	<手術日>	大澤敏久
	荒 毅	齋藤健一	信太晃祐		齋藤健一
	信太晃祐	一ノ瀬 剛	猪俣和弘 山田哲也 午後		一ノ瀬 剛
形成外科	(古賀康史) 午後				(田村健・竹内誠也) 午後 交代制
脳神経外科	島内寛也	栗原秀行 午前	<手術日>	笹口修男	佐藤晃之
皮膚科		(井上千鶴)			(須藤麻梨子)
産婦人科	伊藤郁朗	伊藤郁朗	(西村俊夫) <産後検診>	満下淳地	伊藤郁朗 第2週は紹介・予約
	満下淳地	青木 宏	青木瑛子 午前	(金井真理)	青木 宏
	永井あや	田村美樹		(森田晶人)	永井あや
	青木瑛子 午後				
眼科	土屋 明 紹介・予約	土屋 明	土屋 明	土屋 明	土屋 明
眼形成眼窩外科	笠井健一郎 <手術日>	笠井健一郎 <手術日>	笠井健一郎	笠井健一郎 <手術日>	笠井健一郎
耳鼻いんこう科	高橋克昌		<手術日>	高橋克昌	高橋克昌
放射線治療科	北本佳住	北本佳住	大高 建	北本佳住	北本佳住
	大高 建	大高 建		大高 建	大高 建
歯科口腔外科	柴野正康	<手術日>	前山 恵里	薬師寺 孝	<手術日>
歯科(歯科麻酔) 摂食嚥下・口腔ケア外来	稲川元明 第1・3・5週のみ	稲川元明	稲川元明	稲川元明	稲川元明
	木村将典	倉持 真理子	木村将典	木村将典	倉持 真理子
	倉持 真理子	(荒井亮・辻野啓一郎) 第2・4週のみ	倉持 真理子		

(令和元年10月1日現在)

3 予約について

(医療機関からの
紹介患者事前予約)

消化器内科、産婦人科、形成外科、眼形成眼窩外科、整形外科、神経内科、放射線治療科、歯科口腔外科、歯科(歯科麻酔)、呼吸器内科、耳鼻いんこう科は紹介事前予約制となります

- 分娩希望についてはこの限りではありません。
- 精神科も完全予約制となりますが、通常の予約方法と異なります。地域医療支援・連携センターにお尋ねください。

FAXの予約対応を平日は18:30まで行っています

- FAXは24時間受け付けています。

土曜日も予約受付を行っています(8:30-17:15)

4 連絡先

高崎総合医療センター内 地域医療支援・連携センター
医療機関専用ダイヤル:027-322-5835 FAX:027-322-5925

院長室だより

vol.51

日本人にとっての日本語

日本人にとって1番よくわかる言葉は、もちろん日本語です。

生まれてから母親の日本語を聴き、子供の時からそれによって育った言葉です。ものを考える時は日本語で考えます。複雑なことを考える時は、特に1人の例外もなく日本語で考えると思います。もし日本語の能力が落ちれば、当然考える能力は落ちます。英語を早くから習って補うなどということは、単なる妄想、空想で、およそ非現実的な、ばかげた時間の浪費です。母語の力は考える能力と密接不可分に結びついていると思います。

もう一つ大事なものは、数学です。数学を言語と考えると、考えを非常にわかりやすく単純な形で、しかも正確に表現することが出来ます。数学は世界中のどの地域でも、最初の定義（簡単な例ではゼロでは割れない）を理解すれば通用します。ある意味では、数学という言葉は実に簡単です。

例えば難しくなるので、「一般の人にわかりやすくしたいので数学の式に入れないでください」というのはナンセンスにほかならない。

昨年亡くなったスティーブン・ウィリアム・ホーキング (Stephen William Hawking) の本で、数式は $E=mc^2$ だけで、難解な言葉の連続で、「ブラックホールの特異点定理」の解説でしたが、一般人には理解出来ない本になってしまいました。つまり数学の式がなぜあるかというと、簡単だからです。

日本語に戻ると、「私は日本人である」ということと「日本語を話す」ということの間には大きな関係があります。逆に言えば、日本語を取ってしまえば日本文化の大事な部分が抜け落ちることになるのです。

伝統は過去につながっている文化の一面です。教育はどちらかと言えば未来につながっている文化の一面です。

文化というものは、その両面がないと決して成り立ちません。

しかし、いままであったものに固執していればまったく停滞して、何らの創造性をつくり出す力がなくなります。

文化の問題を個人のレベルで考えれば、個人の自由は何かをつくり出すためにはなくてはならない基盤です。

究極には個人の独創性が文化の創造性の根拠です。

そのために日本語は非常に大事です。言葉の定義をしっかり認識していくことが、これからの日本に必要なということなのです。



病院長 石原 弘

INFORMATION

行事などのお知らせ

お気軽にご参加ください

●第15回 高崎総合医療センター登録医大会

日時：2019年11月13日(水) 19時00分～

場所：ホワイトイン高崎 5階グレイス

対象：登録医の先生方

●訪問看護師・病院看護師交流会

日時：2019年11月15日(金)

18時30分～20時00分

テーマ：事例を通して看護を語り合しましょう

対象：訪問看護師、高崎総合医療センター看護師

●第223回 市民健康医学講座

『少しの工夫で続けられる！
糖尿病の今の運動療法』

日時：2019年11月20日(水) 17時30分～

講師：内分泌代謝内科部長 沢尻 信行

リハビリテーション科 浅野 厚雄

場所：当センター2階 大会議室

対象：一般の方 医療従事者

●CPC（臨床病理示説会）

日時：2019年11月27日(水) 17時45分～

場所：当センター2階 大会議室

対象：医師

編集室より

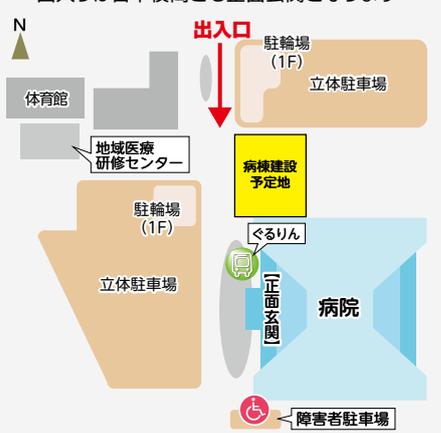
登録医の先生方からのご寄稿・ご意見をお待ちしております。地域医療支援・連携センターまでご連絡をお願い致します。

電話 027-322-5835

(医療機関専用ダイヤル)

高崎総合医療センター案内図

出入りは日中夜間とも正面玄関となります



独立行政法人・国立病院機構

高崎総合医療センター